

JR東海米原駅社員の 自らの死の選択を悼む

2013年1月17日に米原駅社員（享年21歳）が自ら命を絶つという痛ましい事態が起きました。自殺の背景には米原駅での行き過ぎた社員管理の実態がありました。彼は、昨年9月に出勤遅延し1週間にわたる日勤教育が強いられました。この日勤教育で責任と反省を厳しく求め、会社への恐怖などが植え付けられたのだと思います。対策として何の根拠もない1時間前出勤が以前より強く強制されたと考えられます。1月1日9時の出勤で8時40分に出勤したところ「出勤遅延未遂」とされました。彼の心情を知らないまま、現場管理者による厳しい事情聴取を受け、私生活の状況報告書の提出させられました。その後の彼の気持ちを考えると、ここまで彼を追いつめた現実には、私たちは心の痛みを耐えることができません。

会社は責任がないと思っているのか

この痛苦的現実に対して本部は申し入れを行いました。しかし、会社は付議事項でないとして労使協議を開催しないと通告してきました。会社は、幹事間折衝で「分からない」「強要はしていない」などと責任を追及されないことばかりに目を向けています。再び三度も繰り返される不幸な現実には目を背けていては無念さのみが残ることになります。私たちは、自ら命を絶つという現実には目を向けていない会社に強い憤りを感じます。

無念の叫びを聞き、職場に人間性を取り戻そう！

名古屋地本内においても、事故などで必要以上に責められ会社を休んでいる社員も多く存在します。会社も面談と称して休んでいる社員に会っているようですが、必要以上に責めたことの反省は語られることはないと聞きます。むしろ、日勤教育の途中で病気になったのだから、病気が治り出勤したときはまた日勤教育をしてもらおうと伝えた管理者もいると聞いています。「命令と服従」の強要の中で誰もが精神的に参っているのではないのでしょうか。彼の無念の思いを受け止め明るい職場と人間性を取り戻すために立ち上がりましょう。